

令和6年度の学校評価

ア 自己評価結果等

本年度の重点目標	<p>ア 生徒指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会や団体行動の指導を通して、社会における規律やマナーを重んじる生徒を育成する。いじめを許さず、人権意識を高める指導を行う。 ・全校体制で、身だしなみ指導・遅刻指導、挨拶運動等に取り組み、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。 ・適応指導や教育相談の充実に努め、生徒一人一人の帰属意識や自己有用感を高めて、心身の健康の保持増進を図る。 <p>イ 学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員が一丸となって「授業規律の確立」と「魅力ある授業」を通じて、基礎学力の定着を図る。 ・主体的・協働的に学ぶ態度を育成し、授業や家庭学習を充実させ、進路実現に見合った学力を身につけさせる。 ・授業公開・相互授業参観を積極的に実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて指導方法と評価方法の工夫改善に取り組み、教科指導力の向上を図る。 <p>ウ キャリア教育と進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統的計画的なキャリア教育を推進し、望ましい勤労観や職業観の育成を図る。 ・進学補習や自主学習体制を充実させ、生徒一人一人の夢の実現に向け、一層の進学指導の充実を図る。 ・資格取得をより一層推進し、進学も視野に入れた多様な進路指導の充実を図る。 ・生徒が自分自身の長所や適性、進路希望について熟考する機会を持ち、適切な系列の選択ができるよう図るとともに、総合学科の利点を生かし、体験的な学びが充実するよう指導体制を整える。 ・進路目標の達成に向け、分掌・学年・教科が協働して生徒の学力向上の方策を講じる。 <p>エ 生徒会活動及び部活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に取り組む生徒会活動の展開を目指す。 ・部活動指導を通して、集団の規律や礼節を重んじる姿勢を築き、たくましく社会を生き抜く力を育む。 ・部活動の充実と学習時間の保証に努める。 <p>オ 地域連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域から信頼され、地域に愛される学校づくりを目指して、広報活動等の取組を行うことにより、本校教育活動の理解促進を図る。 ・地域との連携やボランティア活動等を通して、コミュニケーション能力の向上、豊かな人間性、社会の一員としての自覚を育むとともに、地域に貢献し愛される学校づくりに取り組む姿勢を確立する。 <p>カ 教職員の多忙化解消への取組・勤務時間の適正な管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県立学校の教職員の業務量の適切な管理等に関する規則・方針に基づき、在校等時間を客観的に把握し時間外在校等時間の上限（1か月45時間、1年360時間）が遵守できるよう業務改善・分担の見直しを行う。 			
	項目(担当)	重点目標	具体的方策	結果と課題
	総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAの主体的活動のあり方の検討 ・防災意識を高める活動の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA諸行事をとおして、生徒の学校生活が充実するための方策を検討する。 ・避難訓練や防災に関連する環境整備を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度前期には学校祭が実施され、PTAとして積極的な参加活動を実施することができた。昨年度から引き続き文化祭と体育祭共に生徒の学校生活充実のためにPTA主催として組織的に提案し、活動することができた。また、新たに愛知県赤十字血液センターと共催して社会貢献としての「献血」を生徒達に紹介する活動が実施された。 ・後期にはPTA研修会が行われた。ヨガ体験を研修内容とし、パティオ池鯉鮒を会場として実施した。参加希望者はPTA役員・理事に加え会員数人の参加もあり、来年度も会員が多数参加できるように内容や開催時期を検討したい。 ・年度初めから調査期間中を含めて、常時防火扉前のスペースを空けるように意識付けを行うことができた。 ・避難訓練については、昨年度の避難訓練の反省点や総務部会での意見から早い時期から検討を重ねることができた。生徒主体の避難訓練に加え、職員の避難時の集合体制の確立や役割分担の確認を行った。これらを踏まえ9月の避難訓練に臨むことができ、防災意識を醸成させる契機となった。
	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況の評価の充実 ・「主体的・対話的で深い学び」による授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修等の充実を図る。 ・ICTの活用を促し、組織的に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的に学習に取り組む態度」の観点の趣旨に対して科会内でコミュニケーションを取り、理解をさらに深めた。 ・「主体的な学び」が実現できているかを評価する場面を意図的に設定し、生徒が自ら主体的に学習に向かうような指導の工夫を教科内で話し合ってもらえることができた。 ・ロイノート等のICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業実践を多くの教科で行うことができた。 ・初任者が積極的にICTを活用した研究授業を行い、協議する場面が多々あり、今後学校全体でICT活用が広がっていくと感じた。
	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の基本的な生活習慣の確立 ・社会における規律やマナーを重んじる生徒の育成 ・校則・行事の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校体制で、身だしなみ指導・遅刻指導、挨拶運動等に取り組む。 ・様々な機会をとらえ、心の教育の実践を行う。 ・現在に必要とされる校則を考え、校則で生徒一人一人の成長を促せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導は各学年の指導により、TPOを意識できるようになってきた。遅刻に関しては昨年度と比べると減少したが依然として遅刻数は多くなった。挨拶は校内での挨拶が自然とできる生徒が増えたように感じている。 ・多くの生徒が規律やマナーを重んじて行動ができたと感じている。少数ではあるが、一時停止無視や車での送迎時に近隣の住民の方にご迷惑になる場所での乗降車をおこなう生徒もいる現状もある。今後も定期的に指導をしていく必要性を感じた。
生徒会部	<ul style="list-style-type: none"> ・他人を尊重する態度の育成 ・生徒主体の行事促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動を通して技術、マナーの向上、安全に協力し合う集団を作る。 ・執行部を中心に、生徒の主体的な取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動を通して、集団として、どのように行動すれば良いか考えて行動することができた。 ・部活動の加入率や定着率が、年によって大きく違うので、より積極的に参加させるかという課題がある。 ・生徒会執行部や生徒が主体となり、学校祭や球技大会、赤い羽根共同募金などの学校行事に取り組むことができた。また、生徒議会を開催しクラスの意見を吸い上げ活動に活かした。 	
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な進路意識を基盤にした学習習慣の確立 ・多方面においてより高い目標を持たせる進路指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けた基礎学力を身につけさせる。 ・多様な進路目標実現に向けた進路指導を充実させる。 ・社会で必要とされるモラルやマナーを身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の実現に向けて、就職ガイダンスや進学補習、学習会、模擬試験を計画的に実施することにより基礎学力の向上や就職試験、大学入試に対応するための基礎学力を育成することができた。 ・進学補習の受講者が減少したため、補習の実施方法や内容を見直す必要がある。 ・各学年、各教科と連携し、情報共有や大学見学会、進路講演会、校内企業展等の進路に関する行事を実施し進路に対する意識を高めたり、進路検討会を行うことにより、多様な進路希望に対応するための具体的な進路指導を行うことができた。 ・進路関係の行事や進路検討会の内容を見直し、精選する必要がある。 ・就職担当者による就職ガイダンスの中で、社会人として必要なマナーやモラルを学ばせることができた。 	

項目(担当)	重点目標	具体的方策	結果と課題
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的な学習生活環境の整備 ・生徒の心身の健康維持 ・相談活動における各種機関との連携 ・生徒に関する情報の共有化 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動、紙資源の回収を展開する。 ・健康診断の事後指導の充実を図る。 ・特別支援教育と教育相談を充実する。 ・保護者やSC、外部機関との連携の在り方を考察する。 ・生徒情報共有フォルダを作成し情報の共有化を図る ・教育相談委員会の充実を図る。 ・保健室との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な清掃活動ができるように、清掃道具・器具等を適宜更新・整備した。 ・健康診断の結果や受診勧告を、検診後なるべく迅速に発行することに努めた。 ・特別支援が必要な生徒情報を教員間で共有できるよう努めるとともに、保護者・生徒本人と定期的に面談し、連携して生徒を支援できるような態勢を維持した。また、教育相談委員会を定期的に開き、様々な視点で生徒を把握・支援するように努めた。 ・1～2学期にかけては、SCへの相談を生徒や保護者に働きかけても反応が薄かったが、年度末になって急激に増加した。しかし、その頃には事態が硬直化していることが多かった。必要な時期に柔軟に対応できるように、生徒や保護者への気軽なSC利用の呼びかけを活発にしていける必要があると感じる。 ・生徒情報共有フォルダへの情報の入力やや停滞気味である。些少なことでも気がついたときに入力し、情報共有ができるように工夫が必要だと感じている。と同時に、情報管理の徹底も両立させなくてはならず、そのよりよいあり方を模索する必要があると考えている。
教育情報部	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の多機能化、快適な読書空間の構築 ・ICT機器の利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒からの希望図書及び学びにつながるボードゲーム等を充実させる。 ・生徒用タブレットの使用方法を生徒に徹底する。 ・教員用PC更新に伴う変更を周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出冊数、来館者数ともに前年度よりも減少してしまった。本を読んだり借りたりするだけでなく、勉強をするために来館する生徒も減っている。本の整理や季節感のあるレイアウトや掲示、「図書館からこんにちは」の発行、図書委員による企画の展示、軽読書室の充実、生徒の希望図書の購入、雑誌やポスターの配布などを今後も続けていきたい。エアコンやストーブを充実させて過ごしやすい環境にしたい。 ・ロイロノート、スタディサプリ、OneNote、動画撮影など生徒のタブレットの使用頻度が高くなっている。前年度の反省を踏まえ、今年度は破損防止のためにタブレットカバーを装着した。以前に比べ破損は減ったが、未だタッチペンの亡失がある。県配備のタブレットについては今後も注意喚起を行っていく。 ・教員用PC更新はスムーズに行うことができた。タッチペンの不具合が頻発しているため、学校貸出のタッチペンを増やすことも検討したい。
総合推進	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動 ・産業社会と人間・総合的な探究の時間の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学・学校説明会の実施 ・ホームページの充実 ・教育課程や系列の充実 ・総合学科発表会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の体験入学と学校説明を在校生の発表を中心に実施し、本校の魅力を中学生に伝えることができた。 ・中学生の体験入学や学校説明の申し込みをホームページを活用して行った。 ・教育課程の改善や系列の見直しをはかるため、コース制の導入を検討した。 ・総合的な探究の時間の発表を全校生徒及び体験入学や学校説明会参加の中学生に対して行った。
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立と集団生活における規律の遵守 ・人権を尊重する態度の育成 ・予習復習など家庭学習を基盤にした学習習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行と、TPOに合わせた身だしなみを自らできるように指導する。 ・学校の教育活動全体を通じて人権について多面的・多角的に考え、多様性を尊重する態度を育成する。 ・学習方法の指導、効果的な課題、小テストを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒から自発的に挨拶ができるように声をかけ、始業時や終業時の挨拶の徹底、身だしなみ指導においては普段からその必要性を理解できるように指導した。 ・人権感覚や人権を尊重する態度の育成を目指し、講話や福祉実践教室などの行事を通して、他者理解に努めさせるとともに、多様性に対応できる力を身につけられるよう、日々の授業や部活動において他者との対話を通じて、人権や自己理解について考えられる機会を設けた。 ・各教科で小テストの実施、事前事後指導や学習支援アプリの効果的活用方法の指導を充実させるとともに、観点別での目標を明確にさせ、生徒が自主的・主体的に学習に取り組む意欲を引き出すよう学ぶ機会の設定や、学習習慣を確立できるような指導を心がけた。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・意識・行動の向上 ・基礎学力の定着と向上 ・進路意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・集会や面談等を通じて、生徒に自分たちが集団の中心的立場であることを自覚させる。 ・辞書、参考書等を使って自ら学ぶ姿勢を育てる。 ・進路指導を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会や学年集会では、時間厳守を心がけた姿が見られた。学校祭では行事を盛り上げようとする姿勢が随所に見られ、やり切ることができた。生徒会役員選挙では、2学年からの立候補が多数あり学校の中心的立場としての自覚が芽生えてきたように感じている。他にも全体として学校のために、人のためにとと思われる行動が増え、行動に変容が現れてきたと感じる。 ・学習難易度が上がってくる中で、居残り学習や家庭学習をしながら各自が基礎学力の定着を図ってきた。各教科では、小テストの実施や学習支援アプリを活用した課題配信をするなど工夫を凝らし、学習習慣の確立ができるような指導を心がけた。 ・3年次の科目選択では説明会や担任面談等を丁寧に実施し、生徒の進路希望に即した決定ができるように促した。進路探究や外部講師による進路希望別のガイダンス等を行い、進路について考えられる機会を設け、意識の向上に務めた。夏季休業中課題として、オープンキャンパスに参加するように促し、多くの生徒が行動に移すことができていた。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の実現 ・自ら考えて行動する力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・系列の特性に合わせた指導をする。 ・就職指導と進学者向け学習会、補習を充実する。 ・自ら問いを立て、解決方法を探索して主体的に行動する力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒面談を重ね、一人一人の多様な進路を把握し、担任が中心となって入試や就職試験の情報を共有し合い、各系列に必要な指導を行った。 ・新教育課程入試に備え補習内容を見直し、入試制度や入試問題・模擬問題の研究を行い対応できるよう心がけた。また、就職者向けのマナー指導、面接指導を充実させ、生徒の志望する進路実現ができるよう心がけた。 ・総合的な探究の時間等で生徒主体で活動できる場面を設けた。その結果、多くの生徒がテーマ決めから研究内容、発表に至るまで、自ら考えて行動・探究することができていた。
学校関係者評価を実施した主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 ・キャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の向上 ・地域連携の推進 ・学習指導の充実 ・いじめ防止の取組 ・進路指導の充実 ・勤務時間の管理
自己評価結果について			<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導、遅刻指導、あいさつ運動などを組織的にを行い、基本的な生活習慣の確立を図ることができた。 ・生徒指導部を中心に、ルールメイキングの研修会を実施し、校内でも活動を開始し、生徒が意見表明することができる場面を創出した。 ・授業研究週間を年間2回設定し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教科指導力の向上や授業改善を図った。 ・デジタル採点システムの導入をはじめとし、校内書類の押印廃止や会議資料の電子化など、業務改善を図った。
今後の改善方策について			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様性や時代に合わせるためにもルールメイキングの活動を軌道に乗せる工夫を施す。 ・働き方改革ロードマップをもとに更なる業務改善を推進していく。特に、電子化・ペーパーレス化・留守電時間の最適化・部活動指導のあり方などを検討し、見直ししていく。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見や要望)			<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験などで地元企業を知る機会をもっと増やしていただくと有難い。 ・生徒が主体的に活動する場面が増えてきていることを頼もしく感じる。特に、学校紹介を生徒が行うのがよかった。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期		<ul style="list-style-type: none"> ・構成：地元経済界代表、地域代表、地元中学校長、PTA役員 ・評価時期：令和7年3月(書面開催・アンケートを実施) 	

(5) 経営管理上の問題点等

ア 施設・設備の改善

教室、廊下の設備・施設の老朽化が著しく補修の必要がある。特に、蛍光灯は計画的にLED化する必要がある。

イ 組織・運営関係の改善

職員の年齢構成に偏りがあり、中堅教諭が不足している。そのため、初任者に十分な指導をする体制が不十分であるため、より組織的に研修を行う必要がある。